奈良・薬師寺旧境内

1　所在地　奈良市西ノ京町
2　調査期間　二〇〇一年（平13）一〇月
3　発掘機関　奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部
4　調査担当者　代表　金子裕之
5　遺跡の種類　寺院跡
6　遺跡の年代　奈良時代～江戸時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、平城京跡右京六条二坊十三坪の北西隅、薬師寺寺域の西辺にあたる。今回の調査は駐車場建設に伴うもので、調査面積は東西一〇m南北三mの約三〇㎡である。

（奈良・桜井）

調査の結果、地山直上の整地土面で二条の素掘りの溝を検出した。

木簡は、東西溝SD二七九〇の最下層から六点出土した。この溝は幅〇・七m以上、現存深さ〇・七m、

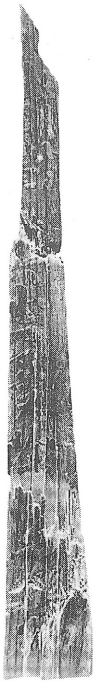
薬師寺中心伽藍に至る寺域内東西道路の南側溝と考えられ、西流して西二坊大路東側溝の延長上に位置する南北溝SD二七八五に注ぎ込む。両溝は併存し、廃絶は近世に下る。SD二七九〇からは、他に奈良時代から室町時代にかけての軒瓦、室町時代頃の瓦質の擂鉢、江戸時代の土師器（灯明皿としての使用痕跡あり）、漆器椀、灯明皿受台などが出土している。木簡は掲出の一点以外全て墨付きのみの断片である。

8　木簡の釈文・内容

(1)　　〔一カ〕
　　十□月八日　〔供カ〕
□□□□□廿一ケ度除□□□　(318)×(37)×4　081

中世以降の祈祷札の類と考えられる木簡で、右辺と下端は原形を保ち、右辺上部には切り込みがあった可能性がある。左辺は欠損しており。上端も現状より若干長かったと考えられる。一定期間日光にさらされていたためか、文字が一部白く浮き上がって残り、斜光により釈読できる部分がある。

9　関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要二〇〇二』（二〇〇二年）

（渡辺晃宏）